



光星 投打に調整順調

あす強豪・東邦と2回戦

全国高校野球選手権で初戦を突破した八戸学院光星は12日、2日後の14日第3試合に迫った2回戦・東邦(愛知)戦に向け、兵庫県西宮市の津門野球場で練習に励んだ。主戦櫻井は軽めの投球練習を行う一方、打撃陣は徹底して打ち込み、順調な調整ぶりをアピールした。

練習は午前11時から2時間行った。1回戦で137球を投げ切った櫻井はフルベンに入り、球の軌道を確認するように十数球投げた。マネジャーに後ろから投球動作を動画撮影してもらい、その打撃練習では東邦の主戦右腕藤嶋、左腕松山の両投手を想定し、左右の打撃投手やマシンを打ち込んだ。

仲井監督から「コンパクトに振れ」と声が飛ぶ



マネジャーに動画を撮影してもらいながら、投球フォームを確認する八学光星の主戦櫻井。12日午前、兵庫県西宮市・津門野球場

中、鋭い打球を外野にはじき返した。

一方、東邦ナインは午前10時から2時間、同市と相手を圧倒した打線は

この日も健在。主砲藤嶋をはじめ、各打者が大きな当たりを飛ばした。投手としての登板の可能性

光星 仲井監督 機動力駆使する

初戦を延長の末にもにした八学光星が2回戦で対戦するのは強打を誇る東邦。どんな展開に持ち込み、勝機をたくり奇せるのか。八学光星の仲井監督と、東邦の森田監督の両指揮官に、意気込みなどを尋ねた。

仲井監督 1回戦で苦しい接戦を制したのは、選手たちにとって大きな財産となったはず。甲子園の戦いの厳しさを身をもって感じたことだろ



八学光星 仲井監督

藤嶋の一撃期待 東邦・森田監督

機動力も侮れない。森田監督 エースの櫻井君はストライクを先行させる制球力がある。追いつけないと苦しくなるので、初球から甘い球を積極的に打ちにいきた。打線では番伊藤君、3番田城君が好打者だ。理想の試合展開は。

仲井監督 機動力を駆使した野球をしたい。期待しているのは、初戦でなかなか出塁できなかった1番伊藤、彼なりの力を出して、相手に圧力をかけてほしい。

森田監督 うちの投手がどれだけ我慢し、失点を抑えるのが鍵。打ちたい。(構成・松田啓志)

う。気持ちを引き締まらさず、状態はいい。

仲井監督 春の選抜でも優勝候補だった、まさに強豪校。特に藤嶋君といふ鍛えられた、非常に素晴らしい選手がいる。森田監督 攻守のレベルが高く、安定感がある。警戒すべきポイント

仲井監督 投打の中心の藤嶋君と、左腕松山君。

光星 甲子園だより

安藤 譲二 投手(3年)

本真出身選手で唯一ベシ入りを果たした右腕。絶好調で、これまでの最速140km/hを超える「140km/hを出せそう」

絶好調 140km/h 出せそう

と登板を心待ちにする。

1回戦後、同じ白銀中出身で、県大会準決勝で下した八戸西の竹本投手から「おめでとう」と電話があり「うれしかった」と笑顔。ただ、「お前が投じているところを見たい」とも言われ、「見球で三振を取るところを見たい」。同郷選手の期待を力に変え、万全の状態です。

(白銀中出身170cm、73kg、右投げ右打ち)